（別紙様式４）
【職業実践専門課程認定後の公表様式】

平成28年8月30日

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
北海道ｴｺ・動物 自然専門学校	平成10年4月1日	佐藤　俊	〒061-1373　北海道恵庭市恵み野西５丁目10-4 （電話）0123-36-2311
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人 産業技術学園	昭和63年1月5日	宮川　藤一郎	〒061-1396 恵庭市恵み野北2丁目12番1 （電話）0123-36-8119

目的	トリミング、ヘルスケア、犬のしつけおよび訓練などの専門知識や高度な技術を身につけ、業界のニーズに対応し、現場で即戦力となる動物と人とのコミュニケーション能力を修得し、ビジネス感覚を備えつつ、業界の社会的地位を高めることができる人材を養成することが目的です

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務分野	商業実務専門課程	ペット学科	平成6年文部科学 大臣告示84号	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	1965	330	690	945		
		単位時間					

生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80　人	41　人	2　人	13　人	15　人

学期制度	■1学期：４月１日～９月３０日 ■2学期：１０月１日～３月３１日 ■3学期：	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 平常点、定期試験、実技試験など
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏季：7月から9月までの間で6週間以内 ■冬季：12月から1月までの間で6週間以内 ■学年末：3月から4月までに間で5週間以内	卒業・進級条件	必修科目・選択必修科目を履修することが、進級・卒業要件となり、進級・卒業認定は判定会議にて学校長が行う。
生徒指導	■クラス担任制：　有 ■長期欠席者への指導等の対応 1欠席ごとに電話連絡2欠席で保護者連絡	課外活動	■課外活動の種類 宿泊研修・学年交流会・学園祭　など ■サークル活動：　有
就職等の状況	■主な就職先、業界等 ペットショップ、動物病院、犬訓練施設 ■就職率※1　：　100 % ■卒業者に占める就職者の割合※2　：　92 % ■その他 （平成　27　年度卒業者に関する 平成28年8月30日 時点の情報）	主な資格・検定等	愛玩動物飼養管理士2級 トリマーライセンスB級
中途退学の現状	■中途退学者　5 名 平成27年4月1日 在学者　51　名（平成27年4月1日　入学者を含む） 平成28年度3月31 在学者　46　名（平成28年3月31日　卒業者を含む） ■中退率　9 % ■中途退学の主な理由 進路変更　経済的理由 ■中退防止のための取組 1欠席ごとに電話連絡、面談の実施、保護者連絡、カウンセリング長期休み前後に面談		
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ	URL：http://eco.hht.ac.jp/		

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界の求める知識・技術が教育課程に反映されるように業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改定を定期的に実施することを目的とする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、教育課程の編成において企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識、技術を反映するための連携体制等を行う機関として活動し、職業教育の水準の維持向上を図り、実践的な職業教育を行うことを目的とする。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年8月30日現在

名　前	所　　属	任期	種別
重信　隆夫	特定非営利活動法人北海道ボランティアドッグの会　理	2015.9月～　2017.8月	①業界団体役職員
近藤　幸司	よつば動物病院　医院長	2015.9月～　2017.8月	③企業･関係施設役職員
吉田　俊介	胆振軽種馬農業協同組合青年部　　部長	2015.9月～　2017.8月	①業界団体役職員
田中　秀俊	田中動物病院　院長　胆振獣医師会　　会長	2015.9月～　2017.8月	③企業･関係施設役職員
樋原　均	北海道ペット事業協同組合　　理事長	2015.9月～　2017.8月	①業界団体役職員
横倉　利明	エヌディシーデニ有限会社　　代表取締役	2015.9月～　2017.8月	③企業･関係施設役職員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催

（開催日時）
平成28年2月14日　10:00～12:00　　北海道エコ・動物自然専門学校　図書室
平成28年7月9日15:00～17:00　　北海道エコ・動物自然専門学校　図書室
平成29年2月（予定）　　北海道エコ・動物自然専門学校　図書室

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

講師会議、講師研修会では前年度教育実績報告（検定試験合格状況、ドロップアウト率、長欠者、留年者報告等）や今年度教育方針及び学科カリキュラムの構成ならびにシラバスについての会議を実施。教育課程編成委員会において頂いた意見・評価については、学科内にて再検討し、意見交換を基本としてカリキュラムに反映させる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ペットショップ見学や訓練競技会に参加することで、業界を知る機会とする。また、実際に各業界へ約2週間にわたり業界研修に行くことにより、日々進化する最新の技術知識を肌で感じる機会を設け、その後の授業において、研修での経験を活かし即戦力となる人材の育成を目指すとともに、動物に携わる者としての基本的精神を養う。また学生は現場実習を通じ、企業・業界の第一線で活躍する方々からの直接指導をいただき、将来の夢を現実のものへと意識を具体化する。さらに、一人一人の評価表をいただき達成できていない項目に関しては引き続き学校での指導とする。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

実習演習では基本的な接客力・コミュニケーション力を養うとともに専門の知識技術を身に着けることを目的とする。具体的にはトリミング技術（基本的な技術およびそのシーンに応じたカット技術や、流行をを取り入れた応用のカット技術）犬のしつけや訓練の仕方などの犬に関する知識・技能の習得と、訓練競技会などでの運営管理や人間関係を学ぶ。
ドッグスクールでの犬との接し方はもちろん、業界関係者やお客さんとも接する機会を設け、その雰囲気や世界観を肌で感じとる。
各業界企業とは、直接個別の評価をもとに問題の精査を検討、その後学生へ指導する。

（3）具体的な連携の例

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
業界研修	連携した企業・施設で研修を行い日々変化する業界の技術や知識指導を受け学ぶ	ペットハウス テン・テン ペットサロン&ホテル ピピ 札幌ドッグスクールなど

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

在校している学生たちも多様化しており一人一人を入学から卒業・就職まで導くために、職員それぞれがカウンセリングマインドを持つことが必要とされている。そのために指導と教授力の向上カウンセリング力の向上を目的とする。また、専門技術知識を伝えるに当たり常に業界の新しい情報を入手し、知識技術の向上を図る必要があり、常に研鑽を続けることを目的とする

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

7月21日　訓練士研修会（競技会の採点に関して）　参加者1名

②指導力の修得・向上のための研修等

8月4日　FDC研修（担任力と対話力）　参加者1名
1月15日　FD教員研修（レジリエンス力をはぐくむ、キャリア教育について）　参加者1名

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

開催時期未定　トリミング技術研修　1名

②指導力の修得・向上のための研修等

6月　障がい者差別解消法に関する研修　参加者2名

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

学校法人産業技術学園が設置する専修学校における教育・運営活動等の状況について、自ら行う点検及び評価の項目並びにその実施体制等について検証し、問題点を把握の上目標を明確化し、必要な支援・改善を行うことにより、教育水準の向上と質の保証を図ることが重要である。また多くの外部評価を受けることにより学校評価の精度を高め、客観性を持った評価による改善を目指したい。特に卒業生、保護者、地域住民、企業等との相互理解と連携を確立し、学校の説明責任を果たしていくよう努めることにより学校の組織力を高め地域に支えられる学校づくりにも貢献したい。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか
（2）学校運営	2-4運営方針は定められているか　2-5事業計画は定められているか
（3）教育活動	3-10各学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の
（4）学修成果	4-19就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が
（5）学生支援	5-23就職に関する体制は整備されているか
（6）教育環境	6-31施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
（7）学生の受入れ募集	7-34学生募集活動は適正に行われているか
（8）財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
（9）法令等の遵守	9-42法令、設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか
（10）社会貢献・地域貢献	10-46学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
（11）国際交流	11-48グローバル人材の育成に向けた国際交流などの

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

自己点検自己評価については、「計画」「実践」「評価」の一連のサイクルを行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し懇談を通じての意見や要望を聴取する。聴取した内容は、学校運営に関する事項は、学内の学校長、副校長、教務部長、部署長の会議である「運営会議（定例会毎週1回）にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行い12月には改善計画を含めた事業計画を策定する。一方教育活動については教員及び学科長で構成される学内組織である「教育改革委員会（定例会月1回開催）」にて検討し、1月には次年度カリキュラムの改定にむけての検討ならびに日々の授業運営の改善にを実施している。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年8月30日現在

名　前	所　　属	任期	種別
佐藤翔太	卒業生（株式会社北海道造園コンサルタント　副部長	2015.9月～　2017.8月	卒業生
要害　利江	ペット学科保護者	2015.9月～　2017.8月	保護者
大場　真哉	帯広大谷高等学校　教諭	2015.9月～　2017.8月	高等学校
山田　裕一郎	山田アートフィルム	2015.9月～　2017.8月	近隣関係
近藤　幸司	よつば動物病院　医院長	2015.9月～　2017.8月	企業等委員
吉田　俊介	株式会社ノーザンホースパーク　取締役	2015.9月～　2017.8月	企業等委員
樋原　均	株式会社ペットハウステン・テン　代表取締役	2015.9月～　2017.8月	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生、校長等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　）　）
URL: http://eco.hht.ac.jp/albums/abm00022717.pdf

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
企業等の学校関係者に対しては、業界視点を越えた教育施設としての社会活動からの評価視点を得ることが出来るため、これらを学校教育の客観的な評価、運営での業界目線、地域目線、保護者目線、卒業生目線、そして行政目線から第三者の外部評価と意見をいただく委員会として位置づけをしている。したがって、その情報提供は、学科ごとに設けた教育課程編成委員からの教育評価や産学連携、業界連携についての報告を密に行うとともに、入学式、実習報告会、懇談会、研究発表会、学園祭、卒業式等の行事にも委員の出席をいただき、学園の生の活動の理解を得る機会を持つように心がけとともに、ホームページを通じて積極的に学校情報を発信し、学校の運営状況について知っていただく機会を持つ努力と教育施設としての水準の向上に努めている。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	（1）学校の概要、目標及び計画
（2）各学科等の教育	（2）各学科等の教育
（3）教職員	（3）教職員
（4）キャリア教育・実践的職業教育	（4）キャリア教育・実践的職業教育
（5）様々な教育活動・教育環境	（5）様々な教育活動・教育環境
（6）学生の生活支援	（6）学生の生活支援
（7）学生納付金・修学支援	（7）学生納付金・修学支援
（8）学校の財務	（8）学校の財務
（9）学校評価	（9）学校評価
（10）国際連携の状況	（10）国際連携の状況
（11）その他	（11）その他

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
HP　http://eco.hht.ac.jp/news/index_jouhoukoukai.html

授業科目等の概要

（商業実務専門課程　　ペット学科）平成28年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			講読演習Ⅰ	社会の仕組みやマナーなど就職する上での心構えや動物業界の現状などを学びます。	1通	60	2		○		○		○		
○			講読演習Ⅱ	業界研修・就職活動にむけ書類の作成や業界情報の取得をします。	2前	30	1		○		○		○		
○			マナー講座	社会人として必要な、挨拶、対人スキル、電話対応など一般的な常識を学びます。	1後	30	1		○		○			○	
○			コミュニケーションワーク	グループワークを中心にチームでの業務遂行力、リーダーシップとフォロワーシップを習得します。	1前	30	1		○			○	○		
○			飼養管理士講座	動物全般の飼育管理や法律等を学びます。	1通	60	4	○			○			○	
○			解剖生理	動物を扱う上で基本となる動物の体のしくみを基礎から学びます。	1前	30	2	○			○		○		
○			基礎看護Ⅰ	基本的な動物医療や応急処置など健康管理の基礎を学びます。	1後	30	2	○			○			○	
○			基礎看護Ⅱ	動物の疾病や公衆衛生について学びます。	2前	30	2	○			○			○	
○			業界研修	関連した企業・施設において研修を行い職業意識及び専門的な職業研修を行います。	2前	90	2			○		○			○
	○		ドッグカウンセリング	犬の行動学や、問題行動、その対応について学びます。	1通	60	4	○			○			○	
	○		スタンダード美容理論Ⅰ	犬の歴史・犬種概要・犬種ごとの特徴・カット理論をウイッグを用いて実践的に学びます。	1通	120	8	○			○			○	
	○		スタンダード美容理論Ⅱ	犬種ごとの特徴やカット理論について学びます。	2前	30	2	○			○			○	
	○		トリミング実習Ⅰ	道具の扱い方、犬の扱い方、シャンプー方法、カットの基礎など基本的なトリミングの技術を学びます。	1前	315	7			○	○			○	
	○		トリミング実習Ⅱ	トリミングの基本的技術に加え、時間や正確さを意識した技術の向上や接客方法を学びます。	1後	315	7			○	○			○	
	○		トリミング実習Ⅲ	接客方法の応用、犬種別の欠点カバーや美的強調など、トリミングを実践的に学びます。	2前	360	8			○	○			○	
	○		犬のしつけ	犬の訓練実技、飼主への説明法、飼主の身になった指導法などを学びます。	2前	30	1		○		○		○		
	○		ドッググッズプロデュースⅠ	犬の洋服やアクセサリー等作成や基本作業、手順を学びます。	1後	60	2		○		○			○	

	○		ドッググッズ プロデュースⅡ	犬の洋服やアクセサリー等を作成します。	2 前	60	2		○		○			○	
	○		業界実務実習A	トリミング技術・接客・消毒・清掃・動物看護などを実践的に学びます。	2 後	450	10			○		○		○	
	○		パソコン講座	パソコンの基本操作（文字入力、図表作成など）の知識及び技能を学びます。	1 後	30	2	○			○			○	
	○		イベントプログラム Ⅰ	公式競技会の運営の仕組みや出場に向けての心構えを学びます。	1 前	45	1			○		○	○		
	○		イベントプログラム Ⅱ	公式競技会の運営から携わり、チームワークの重要性を学ぶ。また出場競技での入賞を目指す。	2 前	45	1			○		○	○		
	○		犬学	犬の性質、家畜化の歴史、犬種の特徴、社会化など、犬の基本的事柄を学びます。	1 前	30	2	○			○			○	
	○		トレーニング概論	トレーニングの基礎を理論的に学びます	1 前	60	4	○			○			○	
	○		トレーニング実習Ⅰ	犬との接し方から始まり、信頼関係の築き方やトレーニングの基本的な手法を学びます。	1 通	315	7			○	○			○	
	○		トレーニング実習Ⅱ	公式競技会に向けて、訓練手技の習熟度を高めるための考え方や方法を学びます。	2 前	180	4			○	○			○	
	○		訓練演習	家庭犬訓練やドッグスポーツについて公式競技会を意識した具体的な手技手法を学びます。	1 前	45	1			○		○		○	
	○		訓練演習Ⅰ	家庭犬訓練やドッグスポーツについて、公式競技会を意識した具体的な手技手法を学びます。	1 後	60	2		○			○		○	
	○		訓練演習Ⅱ	警察犬訓練や救助犬訓練を中心とした訓練手法や使役犬の社会的役割についても学びます。	2 前	60	2		○			○		○	
	○		家庭犬のしつけ	家庭犬のしつけを中心に、その知識・手法を学ぶとともに、問題行動の対処法についても学びます。	2 前	30	1		○		○		○		
	○		グルーミング実習Ⅰ	道具の扱い方、犬の扱い方、シャンプー方法など基本的なトリミングの技術を学びます。	1 前	90	2			○	○			○	
	○		グルーミング実習Ⅱ	時間を意識したトリミング技術の実践を学びます。	1 後	135	3			○	○			○	
	○		グルーミング実習Ⅲ	トリミングの基本的技術に加え、時間や正確さを意識した技術の向上や接客方法を学びます。	2 前	135	3			○	○			○	
	○		栄養学概論	栄養の基礎、食生活の重要性、処方食まで、適切な栄養管理について学びます。	1 後	30	2	○			○		○		
	○		動物行動学Ⅰ	発達行動学、犬猫や動物の学習理論ついて学びます。	1 後	30	2	○			○			○	
	○		動物行動学Ⅱ	犬猫の問題行動とその改善方法について学びます。	2 前	30	2	○			○			○	
	○		業界実務実習B	トリミング技術や犬のしつけ、清掃、基礎看護、接客対応など、犬に関わる知識・技能を総合的かつ実践的に学びます。	2 後	450	10					○		○	
		○	ドッググッズ プロデュースⅢ	デザインを考え各個体に合った洋服やアクセサリーを作成します。	2 後	60	2		○		○			○	
		○	トレーニング研究	個人またはグループでテーマを選定し調査研修と発表を行います。	2 後	60	2		○		○			○	

		○	ホリスティックケア	アロマやハーブの種類・効果・効能について学び資格取得を目指します。	1 前	45	1			○	○			○	
		○	保護動物看護演習	犬猫の保護を実践的に学びます	2 前	60	2		○		○		○		
合計				19～31　科目	2190時間以上（68単位以上）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	３０週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。